

巻頭言

## 素材産業を取り巻く政策的課題と ニューガラスフォーラムへの期待

Policy issues surrounding the materials industry  
and expectations for the New Glass Forum



経済産業省製造産業局 素材産業課革新素材室長

金井 伸輔

**KANAI Shinsuke**

本年7月1日に経済産業省素材産業課革新素材室長に着任いたしました金井 伸輔と申します。読者の皆様には、経済産業行政への御理解・御協力に厚く御礼申し上げます。

本年は「国際ガラス年」です。ガラスは透明で安定性に優れるといった特徴を持つ素材として、科学と文明の発展を支えてきました。同時に、光をつかさどる美しさを有するガラスは、文化・芸術、さらに建築や日用品を通じ、人々の生活を豊かなものにしてきました。

私たちは今、世界の政治状況・経済状況が大きく変わる中、人々の生活を豊かなものとしつつ、感染症、少子高齢化、地球環境などの問題にも対応する必要に迫られています。この状況を乗り切るには、ガラスをはじめ、素材産業に関わる皆さまの力が不可欠です。

新型コロナウイルスによる混乱に加え、ロシアによるウクライナ侵攻、さらにこれらを発端とする資源・燃料の価格高騰など、世界の政治状況・経済状況は大きく変化し、物資や技術をめぐり国家間の競争が否応なく激化しています。我が国でも、経済における「自立性」の向上、「優位性」ひいては「不可欠性」の確保を目指す「経済安全保障の強化」が重要な課題となりました。

今年5月には経済安全保障推進法が成立し、国や国民の安全に必要な経済施策を一体的に講じることになりました。重要物資の確保、先端技術の開発、インフラサービスの安定提供、さらに特許出願の非公開という四つの制度が、順次立ち上がります。

素材産業においても、競争力と経済安全保障の強化に関し、必要な取組を進めます。例えば、次世代情報通信インフラなどで重要な技術分野となるファインセラミックスについて、プロセス・インフォマティクス等の手法を通じ、製造プロセスの高度化や社会実装の加速化などに取り組んでいます。

さらに、炭素中立型の経済社会実現を目指す、「2050年カーボンニュートラル」目標が掲げられています。これを、競争力強化と経済成長の機会として捉え、経済社会システム全体の改革を進める必要があります。これまで、令和2年度補正予算で2兆円のグリーンイノベーション（GI）基金を造成し、野心的かつ具体的な目標に向けて技術開発に取り組む企業等を支援しています。加えて、2050年までに世界で最大8,000兆円、我が国でも今後10年間だけで150兆円の投資が必要とされます（IEA及びクリーンエネルギー戦略中間整理の試算）。そのため、投資を促すための環境整備、企業の新たな評価軸の構築、マクロの資金誘導策の3つを軸に検討を進めてまいります。

我が国の素材産業は、皆様の尽力に支えられた高い製品力や技術開発力によって、世界にインパクトをもたらしてきました。青色発光ダイオードやリチウムイオン電池など、ノーベル賞につながる研究も少なくない分野です。その一方で、新興国の積極的な開発投資、製品のコモディティ化、価格競争の激化等の課題に直面しています。昨年4月には政府で「マテリアル革新力強化戦略」を策定、本年4月には経済産業省が「新・素材産業ビジョン」の報告をとりまとめました。これらの取組が、皆さまの研究開発やビジネスの一助となれることを期待しております。

最後に、ニューガラスフォーラムにおかれましては、ガラスに関する調査研究や知的基盤整備、人材育成等を通じ、ガラス産業の技術力向上に多大な貢献をされていることに敬意を表します。また、「国際ガラス年日本実行委員会」への参画等のご支援にも、感謝申し上げます。

今後とも、ガラスをはじめとする素材産業の発展、さらには社会課題の解決に向け、引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。